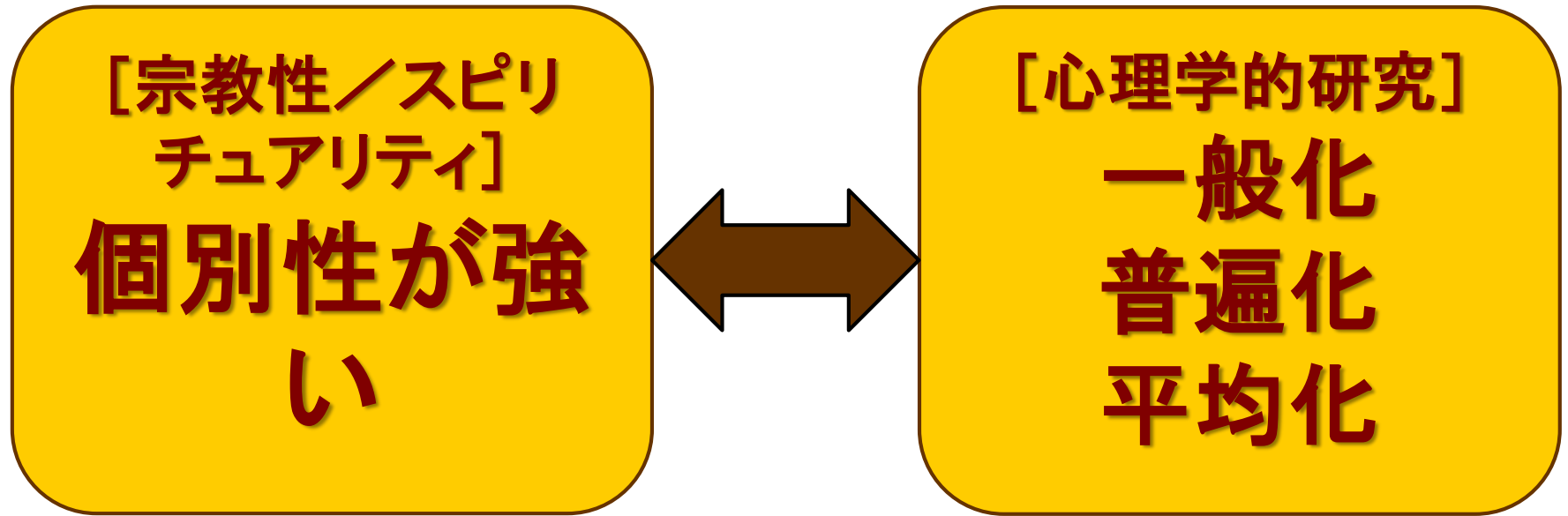


**宗教指導者（僧侶，牧師，司祭）が宗教心理学を行う意義について考える  
－実証的宗教心理学の挑戦（3）－**

**企画・司会：松島公望（東京大学）**

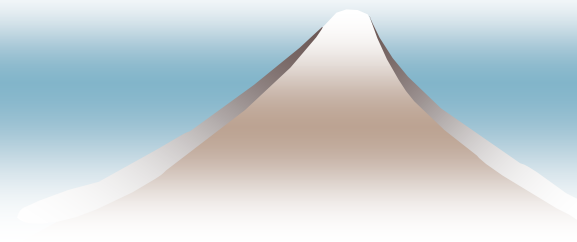
**日本心理学会第88回大会  
公募シンポジウム**

# 宗教：「信仰は個人のものである」



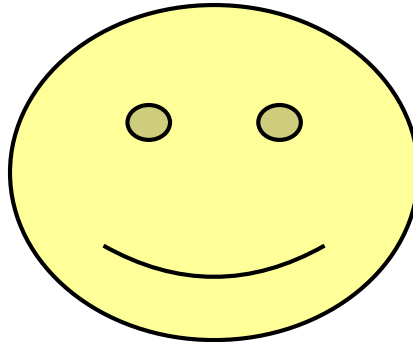
- 「宗教／スピリチュアリティ」と「心理学的研究」とは相性が悪く、「宗教／スピリチュアリティを実証的に扱うのは難しい」と言われてきた。
- 実際、そのことが主な理由で実証的宗教心理学は永きにわたって沈滞していたとの経緯もあった。

- 国内外を眺めてみると、「**宗教／スピリチュアリティにまつわる問題**（ロシアーウクライナ、イスラエルーパレスチナ、アメリカ大統領選挙、**宗教二世の問題**……）」が様々なところで生じており、「**扱うのが難しい**」から**心理学では扱わない**と言いつけるわけにはいかないように思われる。



# 【この困難な課題を解決するヒント】 実証的宗教心理学に取り組んでいる 宗教指導者にあるのではないか...？

私にとって「宗教」とは...???  
私にとって「心理学」とは...???



どのようにバランスを取っていったらいいのだろうか...???

自身の宗教



心理学

宗教界にとっても、心理学界にとっても**新たな道筋**をつける**ヒント**があるように思えてならない。

# シンポジウムの構成

## 【話題提供】

1. 寺院後継者としてのライフコース選択における(宗教)心理学との関わり  
辻本 耐(南山大学社会倫理研究所)
2. 宗教的な関わりの実践における宗教家が宗教心理学を扱う意義  
河村 諒(愛知県立大学)

**3. 宗教がバランスを回復するきっかけを探って  
—プロテスタントの視点から**

**河村従彦(カワムラカウンセリングルーム)**

**4. 心理学の一部門である宗教心理学において宗  
教者が果たす役割は何か**

**西脇 良 南山大学)**

## **【指定討論】**

**大村哲夫(上智大学)**

